

トップ マネジメント コース

Top management

2020

戦略思考に基づいたビジョンを語り、
先頭に立って実践できる
トップリーダーの養成



| 期間 | 7月～12月

| 日程 | 原則 毎週水曜日 18:00～20:30

| 対象 | 取締役、執行役員、事業部長、部長（定員25名）

| 会場 | 【経営アカデミー】東京都千代田区丸の内1-6-2 新丸の内センタービル6階
（東京駅丸の内北口より徒歩3分/地下鉄大手町駅B2b出口よりすぐ）

WEBサイト
リニューアル!

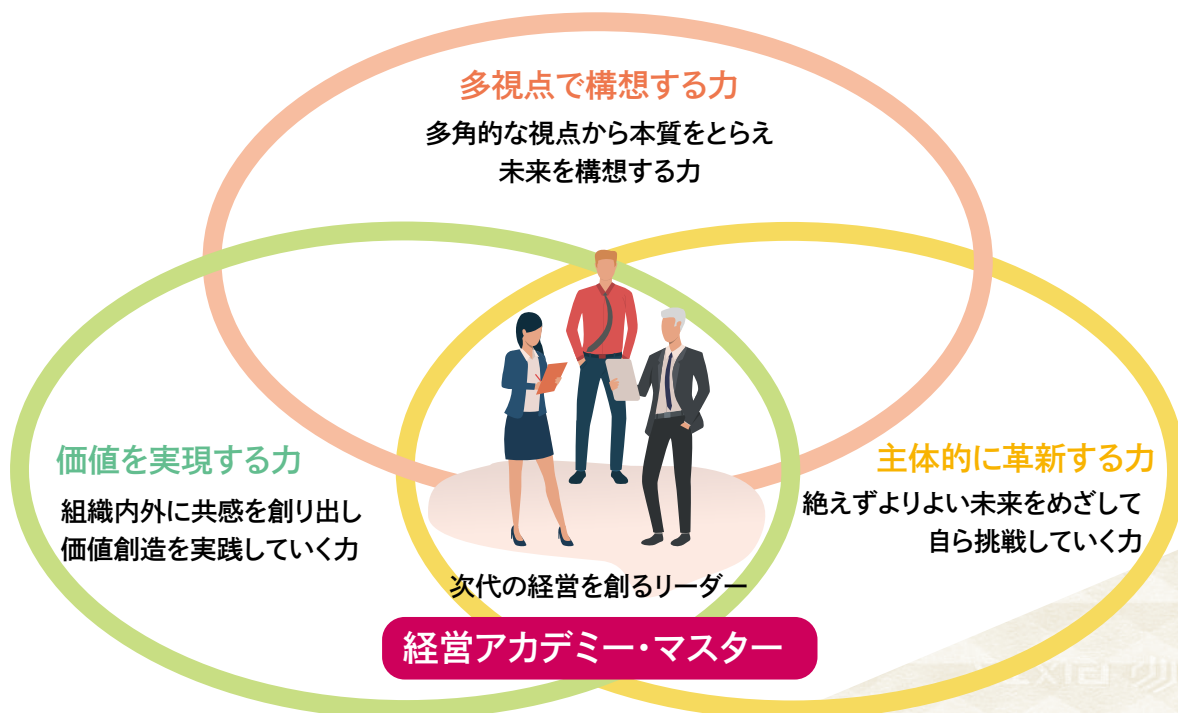
時代の変化を捉え、行動を変える学びの場

経営アカデミーは、公益財団法人日本生産性本部の10周年記念事業として、1965年に創設された我が国初の本格的なビジネススクールの1つです。その時々には時代の変化を捉え、意識を変え、行動を変える学びの場として、これまで15,000名を超える方々に受講いただきました。修了者には経営アカデミー・マスターの称号が与えられ、産業界のリーダーとして多方面で活躍されています。

※修了者には、『経営アカデミー・マスター』の資格が付与されます。(全日本能率連盟登録資格称号第14号)

経営アカデミーが目指す経営人材とは

今日、企業には、大きく二つの挑戦が突きつけられています。SDGsや様々な社会問題が、企業経営において中心的なテーマとなっています。また、デジタル化の大きな流れは、企業の垣根を越えて飛躍的に生産性を高める機会とみなされています。経営アカデミーは、このような大きな時代の変化の中で、自ら課題を設定し、仮説を立て、多様なステークホルダーを巻き込みながら、主体的に価値を創造していく行動力あるビジネスリーダーの養成を目指します。



「多視点で構想する力」「価値を実現する力」「主体的に革新する力」

この3つの力を兼ね備え、次代の経営を創っていくことのできるリーダーです。

トップマネジメント・コースでは、
戦略思考に基づいたビジョンを語り、
先頭に立って実践できる
トップリーダーの養成を
 目指しています。



本コース講師陣

Instructors

[コース委員長]



松本 正義
住友電気工業 会長

[コーディネーター]



加護野 忠男
神戸大学 特命教授



内野 崇
学習院大学 名誉教授



浅羽 茂
早稲田大学
ビジネススクール 教授



米山 茂美
学習院大学 教授

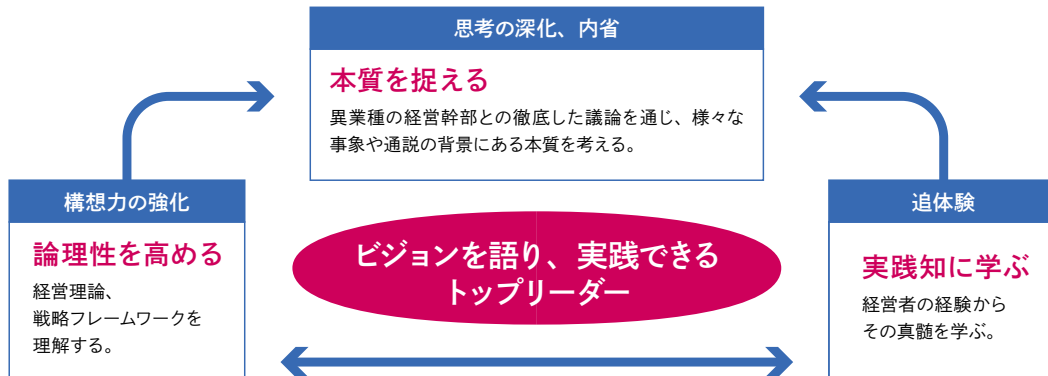


安藤 史江
南山大学 教授

[講師陣]

浅羽 茂	早稲田大学ビジネススクール 教授	木川 眞	ヤマトホールディングス 会長	西山 茂	早稲田大学大学院 教授
新 将命	国際ビジネスブレイン 代表 (元J&J社長)	倉重 英樹	シグマックス 会長	富山 和彦	経営共創基盤 代表取締役 CEO
安藤 史江	南山大学 教授	坂根 正弘	コマツ 相談役	松本 正義	住友電機工業 会長
内野 崇	学習院大学 名誉教授	酒巻 久	キャノン電子 社長	山田 英夫	早稲田大学ビジネススクール 教授
嘉悦 朗	元横浜マリノス 社長	坂本 幸雄	元エルピーダメモリ 社長	山村 明義	東京地下鉄 社長
加護野 忠男	神戸大学 特命教授	敷土 文夫	JFEホールディングス 特別顧問	米山 茂美	学習院大学 教授

日本を代表する経営者による経営の真髄の伝授、講義やケーススタディを通じた戦略フレームワークの理解、異業種の経営幹部との徹底した議論により、トップリーダーに求められるマネジメント力を磨く。



【 日程概要 】

月	テーマ	講義・演習	グループ研究	自己課題
7月	大局的な視点から本質を捉える 	<ul style="list-style-type: none"> 世界観、歴史観、文明観を身につける 戦略の失敗に学び、トップ判断の重要性を考える 第1回 合宿 (1泊2日) <ul style="list-style-type: none"> ビジネスモデルとロジックを検討する 戦略構築のフレームワークを習得する 	グループ編成 グループ研究【1-2】	自己の振り返りと研修目標の設定
8月	経営者の経験と実践知に学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> 経営の本質とは何か ~企業変革におけるトップの役割 リーダーシップのエッセンスとは何か ~勝ち残る企業づくり 第2回 合宿 (1泊2日) <ul style="list-style-type: none"> 経営視点の企業分析 イノベーションと価値創造の進め方 	グループ研究【3-4】 テーマ探索 グループ研究【5-7】 テーマ発表	各講義の気づきと学びを整理
9月	組織をどう方向に変えるのか 世界から日本を見る	<ul style="list-style-type: none"> 組織変革をどう実践するか ~ありたい姿、あるべき姿から構想する 海外 (アジア視察)  ベトナム カンボジア <ul style="list-style-type: none"> 世界・アジアの視点から自社の事業をどう位置付けるか アジアの成長マーケットをどう取り込むか 生産拠点・サプライチェーンをどう構築するか 	グループ研究【8-9】	
10月	これからの経営を考える	<ul style="list-style-type: none"> 顧客価値とビジネスモデルを考える ~違いをどう創り出していくのか ビジネスイノベーション~儲ける仕組みを考える 	グループ研究【10-12】 中間発表 グループ研究【13-14】	中間振り返り
11月	リーダーの決断と実践を学ぶ	第3回 合宿 (1泊2日) <ul style="list-style-type: none"> 危機に問われるリーダーの覚悟 トップリーダーに求められること <ul style="list-style-type: none"> 企業理念を経営に活かすには ~理念による組織運営とモチベーション 	グループ研究【15-16】 グループ研究【17】	
12月	実践への応用を決意する	【グループ研究成果発表】	グループ研究【18-20】 報告書とりまとめ	研修成果の振り返りと実践目標の設定
2021年夏	フォローアップ	研修後の取り組みに関する情報交換		

【講義】 16コマ + 選択講義 + フォローアップ 【グループ研究】 20コマ

※ 講義とグループ研究の各コマ数は2019年度実績をもとに表示。プログラムとスケジュールは変更される場合があります。

講義

知の獲得と議論の場

01 大局的な見地から本質を捉える

- 日本の経営の善さ、強さ
- 経営者の視点（戦略発想の本質）
- これからの企業経営、経営戦略、事業戦略、競争戦略
- グローバルビジョン

02 本質をあぶりだす
フレームワークを身につける

- 経営戦略の論理
- ビジネスモデルの構造を見抜く
- イノベーションと市場創造

03 組織を動かす立場の意思決定と
行動のあり方を考える

- トップ判断の重要性
- 経営理念と経営意思決定
- 経営視点の企業分析
- リーダーシップのエッセンス

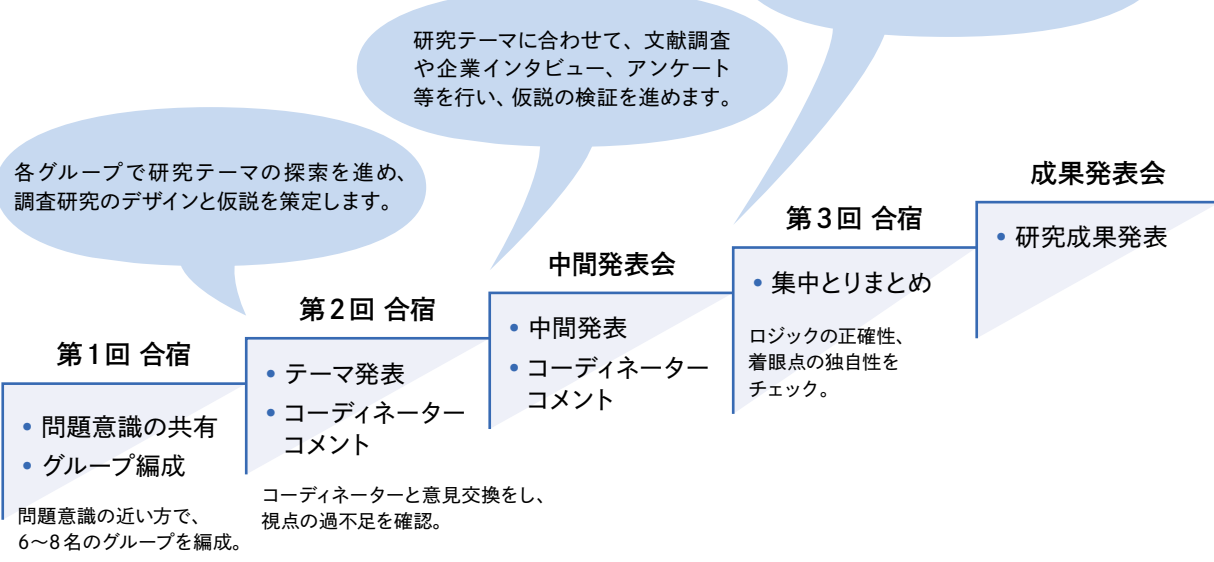
04 経営トップの実践に学ぶ
組織を動かす要諦

- 激変する環境下での企業経営
- 事業撤退と再生
- 経営者に求められる覚悟と決断

グループ研究

参加者相互の問題意識をベースとした議論と整理の場

[グループ研究のプロセス]



講義とグループ研究を並行して進めることで、体系的な学習と実務の往復を促し、自己課題フィードバックにより実践へと橋渡ししていきます。

自己課題

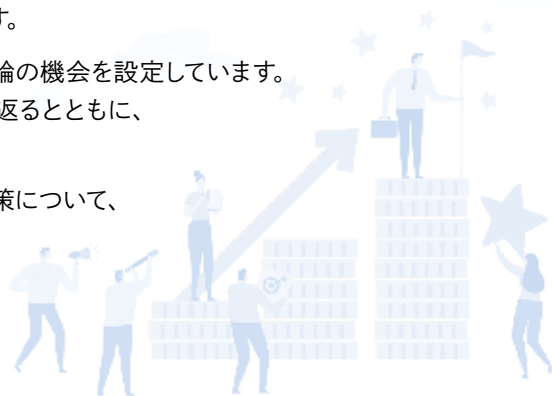
自己の振り返りで効果を確実に

講義ごとに学んだこと、自社の経営や業務にどう具体的に活用するか、レポートを作成。研修前、中間、終了時点で自己の振り返りを行い、研修効果を確実にいたします。



コースの特色

1. 様々な角度からものごとを捉える視点を持つことによって
ビジョン構想力、課題解決能力、問題発見能力の向上を重視しています。
2. 色々な分野の第一人者にご登壇いただき、優れた論理展開力を学びます。戦略課題に取り組むにあたり、戦略的思考とは何かについて、**実践的な思考訓練**を交えながら議論し理解を深めます。
3. トップ経験者との対話の中からリーダーシップの本質に触れ、**経営者に求められる意思決定力や覚悟、行動のあり方**を考えていきます。
4. グループ研究では、3回の合宿をはじめ異業種の経営幹部との徹底した議論の機会を設定しています。参加者相互の多様な視点を理解し、自分のものの見方や行動の特性を振り返るとともに、**豊かな人脈**を得ることができます。
5. 自社・自組織のビジョン達成に向けた戦略課題、本質的な問題の所在と対策について、指導講師陣および受講者相互で**徹底した議論**を行います。
6. 成果は、与えられるものではなく、**一人ひとりが創り上げていくもの**です。積極的な問題提起や発言が内容をより充実したものに高めていきます。



参加者の声

講義では、戦略論や分析手法を理論的に知ることができた。実践においては、理解度が浅いため繰り返し書籍、講義の内容を見直し理解度を深めて活かしていきたい。経営者講話では、さまざまな経営に対する考え方を受講する中で、人間力が大事であることを再度認識した。海外視察においては、海外進出企業の競争の厳しさ、苦労を知ることができた。現在、当社において、生産の海外進出の可能性は低いが、国内生産拠点のあり方を、もう一度見直すいい機会となった。(電機・執行役員)

グループ研究を通じて、他社の経営幹部であるメンバーに刺激されながら、経営指標等の調査分析方法を学ぶと共に、今回の研修の目的としていた中の、特に「如何に「問題を投げかける」か?」という考え方が身につけ始めたと感じている。また、グループ研究では、色々な刺激を受けられるような人脈ができたことにとても喜びを感じている。(化学・事業部長)



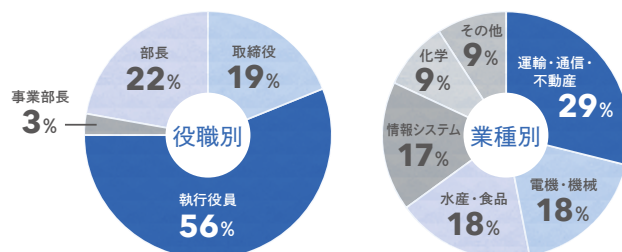
実際に実績を残している経営者の話には重みがあり、経験に裏打ちされた講話は感銘を受けた内容が多かった。また、マネジメントとしての心構えと視点を学べ、これからの自身の活動に大いに参考になった。そして何よりも、業界も違う会社の人たちがどのように考え行動されているのか、見聞きできたことは、大きな刺激であった。人間としての成長につながる人と出会えたと思っている。(電機・事業部長)

最大の収穫は、他業種・他業務の第一線で業務遂行している方達の考え方や各社の社風に触れられた事である。加えてビジネス研究の豪華な講師陣による指導を受けて、今までぼんやりと把握しているつもりだった理解が深まったこと。さらに、経営トップの講義にふれることができ、今後の自分の生活に大きな指針となった。(電機・取締役)

海外法人経営という実務経験はあったものの、経営についての理論的な勉強は今までしたことがなかった。今回の講義で学んだことは、いわば経営のセオリーであると思う。このセオリーを学んだことにより、自分なりに、あるいは自社にあった応用をすることによって経営手法の手数が増えたと思う。経営者講話については、実際に経営していた方の話であり、特に有事の際の経営手法については、大いに参考になった。海外調査では、当社が抱えているグローバル人材の育成について参考になる部分が多く、今後の当社のグローバル人材育成のやり方についての自分の考えが確固たるものとなった。(水産・執行役員)

参加者データ

[平均年齢52.0歳]



海外調査

海外調査では、「大局観、歴史観の醸成と将来ビジョンの構想」を目的に、毎年アジアの新興国に赴き、現地ローカル企業、現地で成功している日系・外資企業、政府機関や経済団体などを訪問。

また、現地の市場や史跡を視察し、民族や文化の源流に触れ、大局観、歴史観を醸成するとともに自社の海外事業展開を構想します。

訪問先

ベトナム JETRO ホーチミン、FUJINET SYSTEMS、GS バッテリー、イオン、エースコック、プラス、リンナイ、ロート・メンソレータム

カンボジア JETRO プノンペン、協和製函、サンライズジャパン病院、住友電装、タマホーム、プノンペン経済特区社 ほか

(過去2年の実績)



スキルアッププログラム

コース期間中、「ファシリテーション」「プレゼンテーション」などのスキルアップのためのプログラムを用意。

コースの参加者が、必要に応じて自由に受講でき、基礎的ビジネススキルのブラッシュアップにお役立ていただけます。

〈最近の参加企業〉

穴吹興産、穴吹ハウジング、穴吹不動産流通、アルケア、NECソリューションイノベータ、NECディスプレイソリューションズ、カスタムシステム、共和電業、杏林製薬、KDDI、サンエツ金属、三和サインワークス、ジェーシービー、水ing、高島屋、タキロンシーアイ、竹本容器、ディックスエンジソリューションズ、テックスエンジソリューションズ、東京地下鉄、東光高岳、鳥居薬品、日鉄ソリューションズ、日本製紙、日本ゼオン、日本食品分析センター、日本信号、日本電力、乃村工藝社、東日本旅客鉄道、日立物流、日立造船、富士ソフト、富士通、富士通エフサス、古河電気工業、マースエンジニアリング、マルハニチロ、丸山製作所、三井金属、三井住友海上火災、三井住友建設、村田製作所、明治電機工業、ユー・エス・エス、横河レンタ・リース、

(50音順、企業名は参加当時のものも含む)

ミニMBAプログラム

コース開講前に、「会計・財務」「戦略」などの経営に関する知識を学べるミニ講座を開催。

コースの参加者が、これから経営アカデミーのプログラムに参加するにあたり、基盤となる知識の習得や自らの知識の整理・確認ができます。

選択講義

コース期間中、経営アカデミー全コースから厳選された講義を参加者へご案内いたします。

現在直面している経営課題、担当業務における問題意識に沿って、各コースで開催される講義を横断的に自由に選択し、組み合わせることで、ご自身のオリジナルプログラムを作成して受講することができます。

修了後のフォローアッププログラム

経営アカデミーのプログラムによって得られた成果を自社での業務に活かしていくために、終講時に自らの課題を設定。修了の半年後を目安に、自らの課題への取り組みについて進捗を報告します。

学びの成果の自社での展開について、さらに効果的な取り組みへの気付きの場となります。

また、グループ単位で継続的に開催されるOB・OG会だけでなく、コース全体や年度を越えた会など、メンバーによる情報交換・事例共有の場として事務局がその開催・運営をサポートしてまいります。

お申込み要領

Outline

【お申込み手順】

- 01 申込書をお問い合わせ先WEBページよりダウンロードし必要事項をご記入の上、FAXまたはメールにてお送り下さい。申込みWEBページから直接お申込みいただくこともできます。
- 02 申込書受領後、確認のお電話を差し上げます。

【参加費】(2020年度予定金額)

賛助会員	115万円(10%税込み 126.5万円)
一般	125万円(10%税込み 137.5万円)

参加費に含まれないもの

国内合宿費(1回あたり5～7万円程度)、海外調査費(40万円程度)、通学・合宿・企業インタビュー等の交通費、グループ研究の著書・資料代、他個別に発生する費用

経営アカデミー コース一覧

経営アカデミーは1965年に産業界の発意と学界の協力により創設された我が国で最初の本格的なビジネススクールの一つです。当アカデミーを修了された方々は15,000名を超え、産業界のリーダーとして活躍しております。

マネジメント・リーダー養成

コース名	実施期間	主な対象者	コースの目的	参加費()内10%税込	
				賛助会員	一般
トップマネジメント・コース	2020年7月～12月	取締役、執行役員、事業部長、部長	戦略思考に基づいたビジョンを語り、先頭に立って実践できるトップリーダーの養成	115万円 (126.5万円)	125万円 (137.5万円)
経営戦略コース	2020年6月～2021年3月	部長、課長(全職種)	自社ビジネスのあり方を見直し、次の戦略を深く多面的に考えるリーダーの養成	106万円 (116.6万円)	116万円 (127.6万円)
技術経営コース	2020年6月～2021年3月	技術戦略、技術企画、研究所、製品開発担当(部長・課長・リーダー)	“技術”から社会的価値を創出できるリーダーの養成	106万円 (116.6万円)	116万円 (127.6万円)
組織変革とリーダーシップコース	2020年5月～2021年2月	部・課・プロジェクトチーム等の組織運営を行うリーダー	人・組織・戦略の視点で変革を推進できる次世代リーダーの養成	94万円 (103.4万円)	104万円 (114.4万円)

プロフェッショナル・リーダー養成

コース名	実施期間	主な対象者	コースの目的	参加費()内10%税込	
				賛助会員	一般
マーケティング戦略コース	2020年5月～2021年3月	マーケティング・営業部門の部長、課長、リーダー、戦略スタッフ	先見性・革新性・戦略性で成熟市場を打ち破るマーケターの養成	94万円 (103.4万円)	104万円 (114.4万円)
生産革新マネジメントコース	2020年5月～2021年2月	生産関連部門(製造、生産管理、品質、調達など)のマネジャー、リーダー	現場と経営の観点で、ありがたい姿を描き、「強い工場」をつくる人材の養成	94万円 (103.4万円)	104万円 (114.4万円)
人事革新コース	2020年6月～2021年2月	人事部・人材開発部門のマネジャー、リーダー、戦略スタッフ	人材マネジメントに革新を起し、世界で競争力のある強い組織創りをリードする戦略的人事リーダーの養成	94万円 (103.4万円)	104万円 (114.4万円)
経営財務コース	2020年6月～12月	財務、経理、IR、リスクマネジメント、企画・管理部門のマネジャー・リーダー	企業価値の向上をリードするCFO候補の養成	94万円 (103.4万円)	104万円 (114.4万円)

イノベーション・リーダー養成

コース名	実施期間	主な対象者	コースの目的	参加費()内10%税込	
				賛助会員	一般
事業変革イノベーションコース	2020年6月～12月	事業責任者、企画・グループ管理・監査部門の責任者、戦略スタッフ	トップや現場を巻き込みながら変革に邁進する中核リーダーの養成	122万円 (134.2万円)	132万円 (145.2万円)
イノベーション・デザインコース	2020年4月～6月	中堅・若手リーダー	企業の実力で未来を変革するイノベーション・デザインリーダーの養成	62万円 (68.2万円)	72万円 (79.2万円)

[国内合宿費] 1回当たり 4～7万円(経営財務コースは合宿費のほかにビジネスゲーム使用料1万円程度)

[海外調査費] トップマネジメント・コース 40万円程度、人事革新コース、生産革新マネジメントコース 30～35万円程度

※参加費に含まれないもの:丸の内教室通学・合宿・企業見学・インタビュー等の交通費、グループ研究の図書・資料代、その他、個別的・追加的に発生する費用

※参加費、その他費用は2020年度の予定金額

お申込み・お問い合わせ先



公益財団法人日本生産性本部 経営アカデミー

〒100-0005

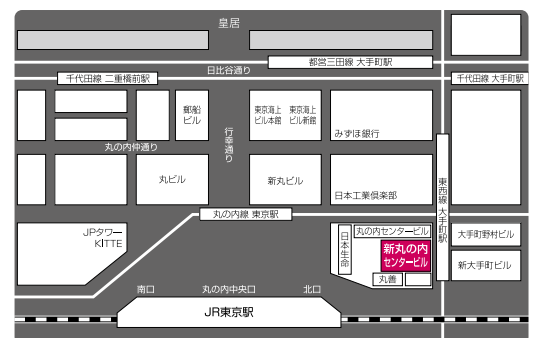
東京都千代田区丸の内1-6-2 新丸の内センタービル6階

[Tel] 03-5221-8455 [Fax] 03-5221-8479

[Mail] academy_info@jpc-net.jp [Web] https://k-academy.jp/

賛助会員制度につきましては、下記までお気軽にお問い合わせください。

[会員サービスセンター] 03-3511-4026



東京駅丸の内北口より徒歩3分、地下鉄大手町駅B2b出口よりすぐ